

【方針】今年度のデジ田方針整理（国への事前相談を踏まえた整理）

【会津若松市の現状】

➤ 本市のデジタルサービスは一定以上の量がある

- デジ田交付金等を活用しつつ、会津大学やAiCTと連携して行政/子育て/観光/決済/防災/食・農/ヘルスケア/エネルギー/地域活性化の多くの分野で都市OSと連携したデジタルサービスを数多く実装している
- デジタル庁Well-Being指標では、客観のデジタル度合いは偏差値61（参考：福島県39/東京都48）

➤ 一方で**市民の実感/普及に必ずしも至っていない課題**がある

- デジタル庁Well-Being指標では、主観のデジタル度合いは偏差値45（参考：福島県41/東京都61）
- プレミアムポイント事業などにより会津財布・会津コインをはじめとする各種デジタルサービスの一定の普及や利用が図られているものの、市民全体からすると拡大の余地は大きく残っている

⇒**継続して市民への実感・利用促進に注力を図っていくことで、さらなるサービスの向上を目指していく**



【国の方針】

➤ デジタル庁はサービスを新しく「**作る**」のではなく（今あるものを）「**使い込む**」に舵を切り始める

- ベンダーが新たにサービスを0から作ることにお金を使うのではなく、既にあるサービスを効率よく活用し、市民の利便性・Well-Being（実感）の向上に費用や労力を注ぐべきという方針

本市では、サービス自体は一定存在することから、**既存のサービスを使い込んでいくことが、国の方針にも合致し、市民実感の向上にも資するもの**と考える。

【方針】既存サービスの使い込みの方針(国への事前相談を踏まえた方針)

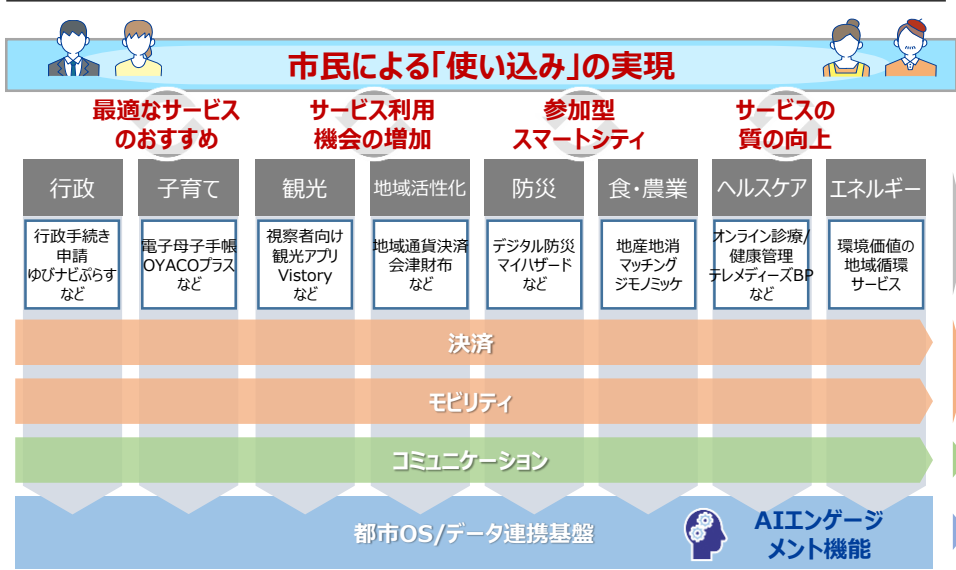
現状は、デジタルサービスがあるのに『知られていない』『使われていない』状況があり、「使い込む」ための対策の方向性と本事業の関係性を以下の通り整理する。

	原因	現状	対策方向性	本事業との関係性
知らない	単純な周知不足	広報などで一定の周知はしているところであるが、十分とは言いきれない状況も	例えば、窓口で紙申請に来た方にゆびナビの案内をするなどの草の根・継続対応が必要不可欠	市及びAiCTで連携して事業外で実施可能
	市民巻き込みの不足/無関心状態	- サポーター制度/あいべあなどを活用しているがメール等での情報配信にとどまる - AiCTも地元企業とのコラボは進みつつあるが、市民自体の参加は限定的	より一層の市民参加型に舵を切り、市民が関心を持ちやすく、参加しやすい取組にしていく必要がある	あいべあの使いやすさ改善 AiCTにおいて、市民参加型PFであるDecidimを活用し、市民参加型のデジタルサービスの構築を目指す
使わない	使いたいけど使えない(デジデバ)	デジタルなんでも相談所をAiCTで開設しており、プレミアムポイント事業への問合せ対応などを含む一定の成果あり	意志はあるのに、使い慣れていない・使い方を知らない方に対しては徹底的にデジタルサポートをすべき	AiCTにて継続してデジタルサポートを実施予定
	使う機会がない/少ない	会津財布しか使っていない、MyRideしか使っていないなど、あるサービスのみしか使っていないユーザが一定数いることが想定される	少しでもデジタルサービスの接点・利用シーンを増やす必要がある	市民にとってわかりやすく、全年齢対象で、多くの取組の横串となる、決済及び移動から連携の取組を促進し、デジタルサービスの接点を増やす
	自分が対象のサービスがわからない	サービス一覧を見ても、何が自分に有用なのかわからない、わざわざサービス内容の確認までしない	市民属性情報等を活用し、サービス自体をより分かりやすくおすすめるなどしていく必要がある	市民セグメントを活用して情報提供だけでなく、サービスそのものをわかりやすくおすすめる
	サービス自体の質が低い	サービス自体を一度使っても使いづらい、イメージしていたものと違うなどの理由で離脱してしまう	サービス自体の質の向上が必要	- 一義的には事業者の仕事 あいべあやDecidimを通じた、利用者と開発者のコミュニケーションの中で継続的なサービス改善に繋げる

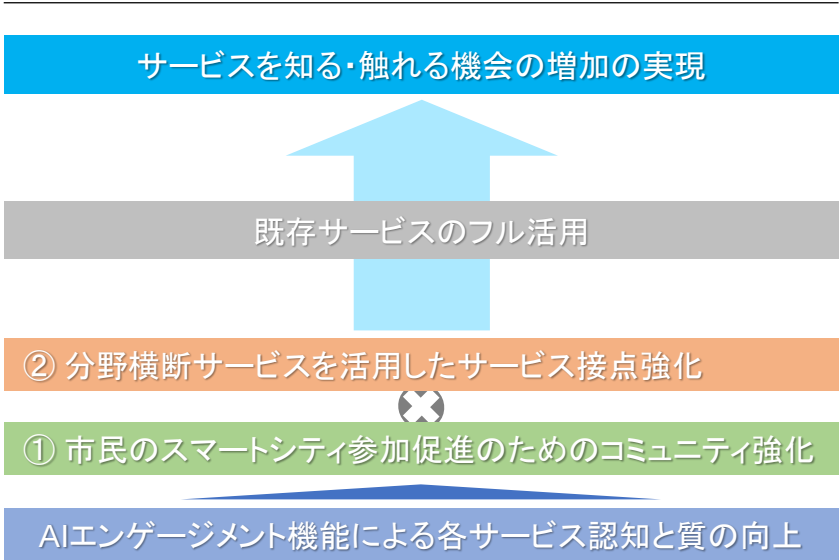
【全体概要】複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業

自治体名	福島県会津若松市	人口	112,449人（R6.2）	事業費	98,500千円
概要	“作るから使う”という方針のもと、デジタルサービスの市民への普及を図っていくため、<u>本年度は新たにサービスを開発するのではなく、サービスの使い込みを強化していく。</u> - 具体的には、市民がスマートシティの取組に対し、関心を持ちやすく、直接関わりやすい仕組みを構築することで、市民がサービスを知る・触れる機会を増やし“使い込み”を実現する。 - さらに、サービスの認知及び質の向上を支えることを目的とした、AIエンゲージメント（繋げる・結ぶ）機能を構築し、この機能を活用した分野横断・横軸であるモビリティ領域及び決済領域の利用シーン拡大に取り組む。				

都市OSに接続するサービスの全体像



「使い込み」促進の流れ



地域内コミュニケーションDXサービス

サービスに関心を持ちやすく直接関わりやすい仕組みを構築し、市民がサービスを知る・触れる機会を増やし“使い込み”や“意見反映”を実現する

需要を掘り起こす移動×目的一体提供サービス

市民にとってわかりやすく対象も広いモビリティ及び決済サービスの利用シーンを拡大し、デジタルサービスの利用機会を増加させる

データ連携基盤の改修（AIエンゲージメント機能）

オプトインにより得られる、属性情報や利用情報を用いてAIで分析し生成される『市民セグメント』（傾向等による分類集団）を活用して、各サービスの認知と質の向上を図る

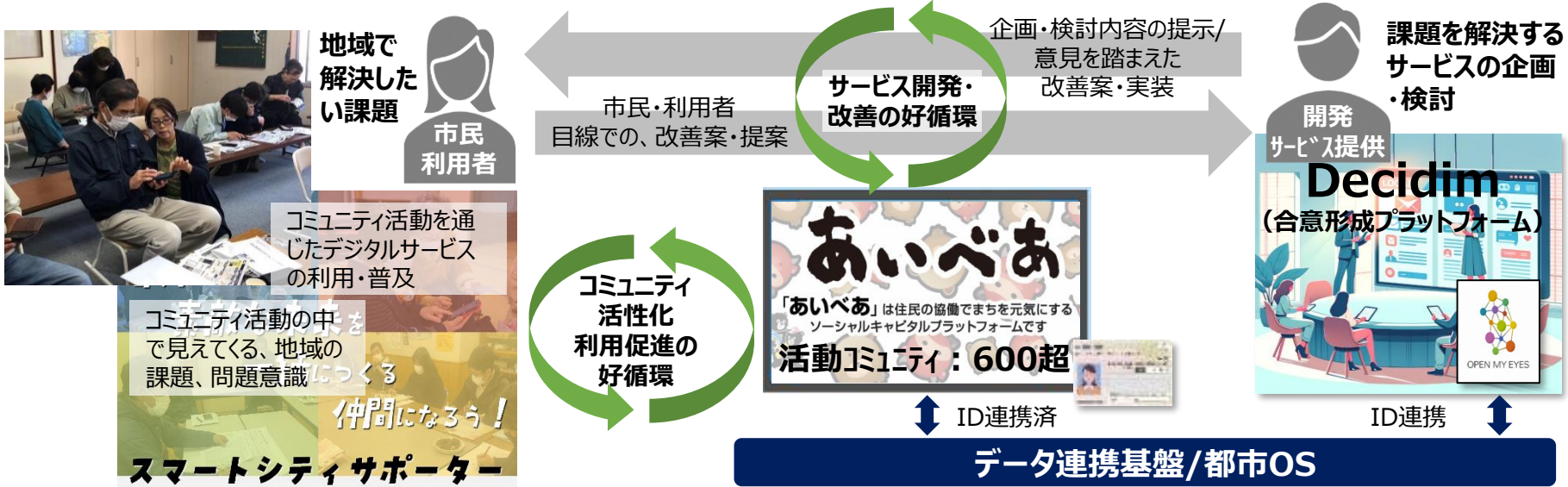
サービス名	地域内コミュニケーションDXサービス
ターゲット	会津若松市民、その他地域に関わるすべての人々
サービス内容	

【取組概要】

- 登録者の多いコミュニケーションサービス「あいべあ」の操作性を向上し、地域における日々の生活・仕事の中で生まれる困りごと・問題意識を投稿しやすくする。
- 「あいべあ」に投稿された内容も踏まえて次に解決・改善したい課題を整理し、市やAiCTコンソーシアム会員企業等が、その課題を解決するサービスの企画・検討を行う。
- 市民参加による合意形成プラットフォームとして広く利用されている「Decidim」をAiCTコンソーシアムが構築し、企画・検討を行った内容を提示し、「Decidim」内で市民の賛否や改善提案などを受け取りながらサービス内容を改善する。

【サービス導入により期待する効果】

市民	抱える課題・問題意識に沿ったサービス提供を受けることができる。
市役所	スマートシティ会津若松が市民に対しより開かれたものとなり、市民参画が増える。
AiCTコンソーシアム等民間企業	地域の課題、提供サービスに対する市民の意見を直接把握できる
地域	スマートシティ会津若松の取組が深化し、持続可能で回復力のある地域社会の実現に近づく。



【事業概要】需要を掘り起こす移動×目的一体提供サービス

(事業費：34,000千円)

サービス名	需要を掘り起こす移動×目的一体提供サービス	事業費	34,000千円
ターゲット	会津若松市民、来訪者		
サービス内容			

【サービス導入により期待する効果】

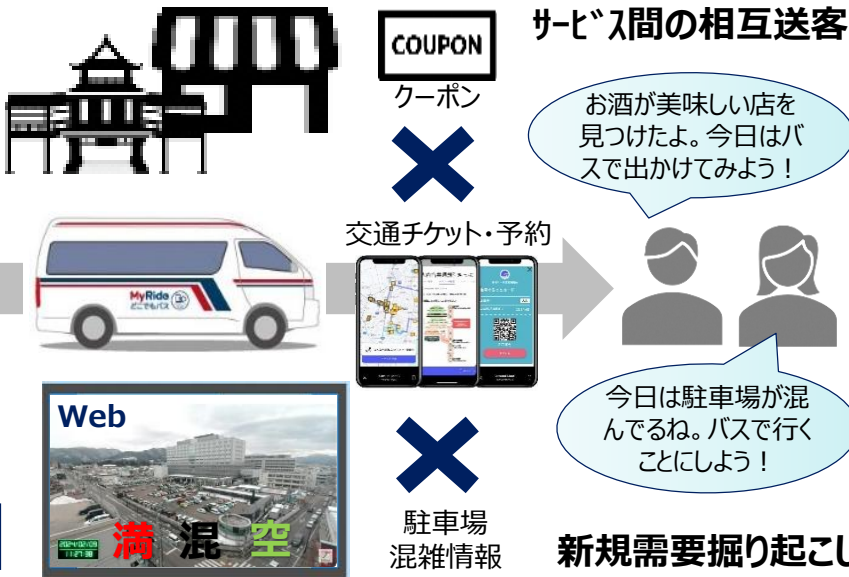
市民	生活目的と移動が連携して利用できる
来訪者	来訪目的と移動が連携して利用できる
交通事業者	公共交通の利用者が増えることで、運行の持続性が高まる
地元店舗	公共交通利用からの送客により、事業の持続性が高まる
駐車場管理者	駐車場が満車となった場合でも、公共交通利用により来訪対応できる

【取組概要】

- デジタル交通サービス「SamuraiMaaS」「MyRideどこでもバス」とデジタルクーポンサービス「会津財布」を連携し、交通チケットを飲食店等のクーポンと同報しておすすめることで、おでかけの回数を増やし、公共交通の利用増に繋げる【市民・来訪者】
- デジタル交通チケットサービス「SamuraiMaaS」において観光施設入館券と交通チケットを連携して販売することで、公共交通の利用増に繋げる【来訪者】
- 病院などの駐車場の混雑情報とデジタル交通サービス「MyRideどこでもバス」等を連携させることで、公共交通の利用を促す【市民】

現状の課題

- 人口が減少するなか、公共交通を持続していくことが難しい→このままだと無くなってしまう
- 利用者が車を持たない高齢者や高校生など固定化してしまっている
- 通院や通学など、利用形態も限定的となっている
- 便利なデマンドバスがあるのに認知度が上がらない



【取組概要】

- ・オプトインにより得られる、属性情報やサービス利用情報を用いてAIで分析し生成される『市民セグメント』（傾向等による分類集団）を活用して、その人にあった情報やサービスを届けることで、各サービスの「使い込み」を促す。

（決済アプリでの活用）

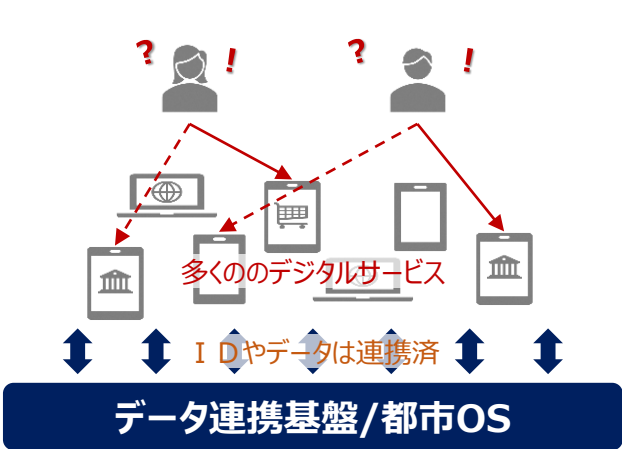
- ・「需要を掘り起こす移動×目的一体提供サービス」において、AIエンゲージメント機能により生成した「市民セグメント」を活用し、決済アプリを通した最適なクーポン配信を行うことで、効果的な移動需要掘り起こしにつなげる。
- ・例えば、「買い物大好き」と「公共交通利用意欲高い」の双方の市民セグメントを持つ利用者に対し、市内商店等の複数クーポンと公共交通の周遊チケットとをあわせて配信することで、更なる公共交通の利用を促す。

（地域ポータルでの活用）

- ・地域ポータルで紹介する記事やサービスに付与しているカテゴリについて、AIエンゲージメント機能により生成した「市民セグメント」にあわせて優先的に紹介するカテゴリを設定することで、スマートシティ会津若松のサービスの潜在的な利用者を実際のサービス利用につなげる。
- ・例えば、「地元貢献意欲高い」市民セグメントを持つ利用者に対し、三方良しを実践する会津財布（地元店舗の負担少なく、地域活性化に向けて取り組んでいる）のようなサービスをその狙いとともに紹介することで、スマートシティ会津若松のサービスの利用を促す。利用者は、自身の志向に応じた便利なサービスに気付き、利用することができる。

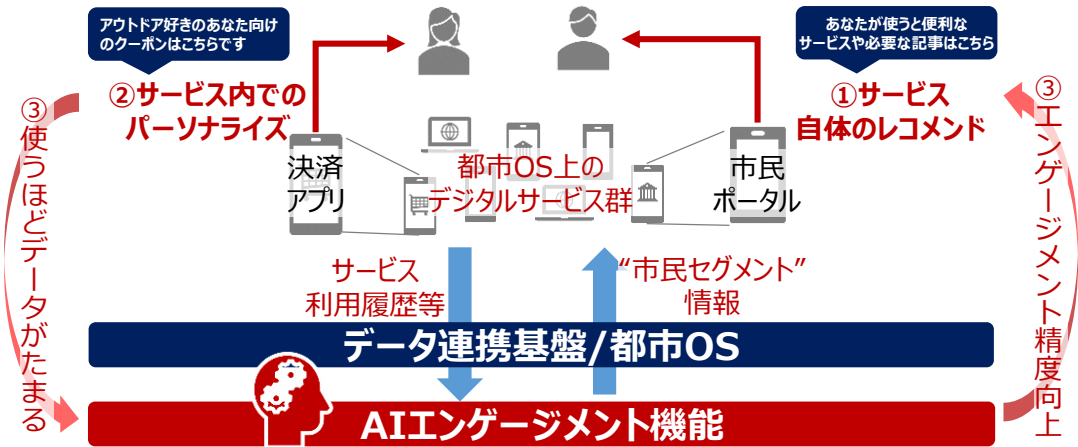
現状

- ・知ってるサービスは便利に利用している
- ・一方で、使えば便利なサービスを知らない／広報誌などで見ても自己に有益か判別がつかない状況



AI活用によるサービス使い込みの強化

- ① 個人にとって最適なサービスをレコメンドすることで「使い込み」を強化
- ② サービス内でも最適な情報を提供することで「使い込み」を強化
- ③ サービスを使えば使うほど、エンゲージメントの精度が向上



【システム構成図】データ連携基盤の構築及び相互運用性の確保に向けた考え方

■ 全体システム構成図

※様式は参考。現時点で想定するシステム概要を可能な限り具体的に記載すること。
※APIがREST/JSON以外の場合には、具体的に記載すること。
※本事業以外で実施する部分を点線で囲むなど、可能な限り他の支援策や自己経費で実施したものと
区別出来るように記載すること

